

## 第 15 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：令和 8 年 3 月 6 日(金) 13:00～15:00
2. 場 所：千曲河川事務所 2 階 大会議室 及び オンライン会議
3. 出席者：平林委員、田端委員、傳田委員、江守委員（代理:金子氏）、是永委員（代理:馬島氏）、横田委員（代理:前田氏）、湯本委員（代理：山本氏）、堀内委員（代理：小林氏）、佐藤委員、久保委員、北條委員、中村委員、浅見委員  
※Web 参加含む  
オブザーバー：永山氏

### 【配付資料】

- ・ 議事次第、出席者名簿、座席図
- ・ 資料-1：前回検討会における意見と回答
- ・ 資料-2：各自然再生事業の実施状況
- ・ 資料-3：令和 7 年度の事業実施による効果把握のためのモニタリング結果
- ・ 資料-4：令和 7 年度の R1 出水後モニタリング結果及び物理環境モニタリング方針
- ・ 資料-5：地域協働の取組状況
- ・ 資料-6：今後の予定
- ・ 参考資料-1：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 設立趣旨
- ・ 参考資料-2：千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 規約
- ・ 参考資料-3：第 14 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

### 4. 議事概要

（凡例：「\*」 質疑、「→」 回答、「☆」 意見、「◇」 議決…出席委員のうち過半数以上の賛成で了承）

#### 1) 前回検討会における意見と回答について 【資料-1】

特になし

#### 2) 各自然再生事業の実施状況 【資料-2】

\* 掘削した土砂はどこに運搬しているか。掘削時に見られる礫の大きさはどの程度か。  
→主に遊水地整備の盛土材料及び砂利採取として使用している。盛土に使用する掘削土砂の粒径は小さめで、シルトや砂が主体となっている。砂利採取による土砂の粒径は 15cm 程度からそれ以下である。南条・網掛地区、中之条地区の土砂は近隣の工業団地の造成工事に使用している。

### 3)令和7年度の事業実施による効果把握のためのモニタリング結果【資料-3】

☆鳥類指標種調査で営巣や雛の確認だけでなく、巣立ちまで確認することで再生産に貢献したとは言えるのではないかと。1/1 冠水頻度の高さで掘削したとしても出水が営巣期間に被る可能性もある。また、経年変化とともに冠水頻度が高まる可能性もある。長良川では営巣後、巣立ち前に流出してしまう状況が見られていたため、同様の条件であれば、再生産の有無まで確認することが実態に即した評価になるのではないかと。

☆掘削範囲は1/1 規模出水で冠水するように計画されているが、砂州を静的に捉えているのではないかと。川は変化していくので、どの程度考慮しているのかわからないが、動的な変化も考えてもらいたい。長期的にみると、複列砂州的に流路が2,3本あるところから単列砂州に移行しているようにも見え、その結果、砂州の高いところが乾燥しているように思う。既に固定している砂州の表面を掘削すること以外も砂礫河原再生としてよく検討してもらいたい。

\*土砂の供給条件に変化はあるか。

→基本的には千曲川本川では土砂供給の条件に大きな変動はない。

◇令和8年度4地区のモニタリング計画についての了承について

了承：賛成13名（委員12+オブザーバー1）

### 4)令和7年度のR1出水後モニタリング結果及び物理環境モニタリング方針【資料-4】

\*R1 出水の前後で砂礫河原を維持している箇所だけでなく、R1 出水によって新たに砂礫河原になった箇所もあるはずである。その後、現在の河道の中で砂礫河原として維持されている箇所の特徴を確認できれば、その知見が今後の砂礫河原再生に直接役立つ情報になると考える。1/10 規模でフラッシュされることを目指しているとのことだが、その指標も含めて必要であれば改善する視点でまとめてはいかかがか。

→冠着地区については砂礫河原が概ね維持されていると考えている。また、地盤高に関しては今年度から調査結果を整理している。今後冠着地区を中心に調査・検討を続けていくと砂礫河原を維持しやすい環境が見えてくるのではないかと考えている。

☆時間と共に砂の堆積が進んでいる箇所があり、樹木繁茂にも影響するため、砂の堆積を抑制することが重要だと考察されていたが、堆積している砂の出どころは把握しているか。上田市内の河道掘削や県の河道掘削など直轄事業以外の河道掘削によって土砂が流出している可能性もある。周辺の状況を整理する必要があるのではないかと。

☆養蜂協会から参加している立場として、蜂も生態系に深く関与しており、河川との関係性としてモニタリング等で検討いただきたい。

\*ハリエンジュは外来種ということで伐採されることが多いが、アカシアのはちみつの蜜源は多くがハリエンジュである。砂礫河原の再生を目的とした施工に反対意見や批判する意図はないが、ハリエンジュも有用な植物であるため、管理型・循環型の施工をお願いしたい。

→かつてはハリエンジュを全伐採したこともあるが、近年は伐採方針を見直している。河道内全てを砂礫河原にしようと考えているわけではなく、ある程度の幅で砂礫河原を維持するサイクルを目指している。ハリエンジュの伐採については関係者の意見も聞きながら進めていく。

\*水域の調査結果から、掘削は魚類にどの程度の効果があるのかわかるとよい。千曲市にはつけばの文化があるが、近年魚が少ないというご意見が多く、ウグイの成魚を放流し産卵を促している。河床に泥が増えることは個体数減少の一因ではないかと懸念しており、魚の生息できる川にしていきたい。

→河川事業では多自然川づくりを目標としており、その考え方の1つとして砂礫河原再生がある。本事業の知見を多自然川づくりに反映したいと考えている。

→水域内の施工がある場合には調査を行い水域への影響有無を確認し慎重に検討を進めている。冠着地区は調査の結果、水中の生物には影響がないことを確認したうえでR4年度に調査を終了している。漁場管理は内水面漁場管理委員会で議論する必要があると思うが、そことも連携し色々な方の意見をいただきながら進めることが重要である。→定期的に低水路の河床材料調査を実施しており、今後も実施する予定である。

\*陸域の掘削のみの場合でも、水域に影響が全く生じないわけでもない。掘削により表層部の粒径の大きい礫が除去されることで、出水によって砂州表面を覆っている小さい礫が流失しやすくなり、低水路部分に流れ出すことで、段々と瀬淵が平坦にならされることもある。このように、水域を施工せずとも、瀬淵のメリハリがなくなり、水底の土砂の粒径が小さくなる変化が生じうる。このサイクルはどの河川でも同様であるため、このことを前提に対策をする必要があるのではないかと。

→事業によるモニタリングは短期的な影響評価である。一方、ご指摘の内容は長期的な河川環境の変化によるものと想定される。河川水辺の国勢調査によって中長期的なデータの取得は行っており、直接的な短期的な評価と、中長期的な評価は分けている。短期的視点だけで全く影響がないと言っているわけではないことはご理解いただきたい。

◇令和8年度の出水後モニタリング計画及び物理環境モニタリング方針の了承について  
了承：賛成13名（委員12＋オブザーバー1）

**5)地域協働の取組状況【資料-5】**

☆以前は水辺の楽校で実施していたが、令和元年の台風以降状況が変わり、近年は萬葉の里スポーツエリアで実施している。来年度からかわまちづくりの整備が始まるため、その整備が完了したらそちらでも実施できればと考えている。引き続きよろしく願いしたい。

☆アンケートの結果からも大変好評である。河川事務所との連携だけでなく上流部では丸子かわまち公園などで独自のイベントも実施予定である。引き続き河川事務所と連携しながら地域とともに取り組みたい。引き続きよろしく願いしたい。

☆取り組みを続けていただき感謝申し上げます。教育委員会とともに実施について引き続き検討する。

**6)今後の予定【資料-6】**

特になし

以上